

社会調査の基礎

問題 84 社会調査に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 貧困の実態調査などの社会調査を基に、社会改良が行われることもある。
- 2 社会調査は、研究者が個人ではなくて共同で行わなければならない。
- 3 報道機関が行っている世論調査は、社会調査には含まれない。
- 4 社会調査は、社会福祉援助技術として有効な方法ではない。
- 5 社会調査は、数量的データとして結果を提示できなければならない。

問題 85 2007年(平成19年)の統計法改正に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 調査票情報の利用制度が変わり、目的を問わず誰でも二次利用できるようになった。
- 2 改正の目的は、公的統計の位置づけを「行政のための統計」から「社会の情報基盤としての統計」へと転換させることである。
- 3 基幹統計は、それ以前の指定統計と異なって、回答の義務を規定している。
- 4 統計委員会は、各都道府県に設置されるようになった。
- 5 調査対象者の秘密保護の扱いは、改正前と変わっていない。

問題 86 調査対象者の抽出に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 標本抽出方法の確率抽出と非確率抽出では、非確率抽出の方が母集団に対する代表性が高い方法である。
- 2 適切に抽出された標本調査であれば、標本誤差は生じない。
- 3 調査対象者の多段抽出は、単純無作為抽出に比べて母集団の特性を推定する精度が高い。
- 4 系統抽出法は、抽出台帳に一定の規則性がある場合には、抽出した標本に偏りを生じることはない。
- 5 スノーボール・サンプリングは、非確率抽出法の一つである。

問題 87 量的調査の測定尺度に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 名義尺度は、代表値を求めることはできない。
- 2 順序尺度は、測定値の大小や優劣を意味しない。
- 3 間隔尺度は、測定値の間隔を数量的に表現できない。
- 4 比例尺度は、数値の間隔が等しいだけでなく数値の比も意味を持つ。
- 5 名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度は、いずれも標準偏差を計算することに数量的な意味がある。

問題 88 質問紙の作成に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 ダブルバーレルは、質問の中に三つ以上の論点を含めないようにする作成方法である。
- 2 リッカート尺度は、「当てはまる」「どちらともいえない」「当てはまらない」などというように多段階で程度を測定する選択肢で回答を求めるものである。
- 3 キャリーオーバー効果は、前に回答したことが、後に続く質問の回答へ効果的な影響を与えるので、積極的に用いるのが望ましい。
- 4 質問紙の作成においては、全て○や数字で回答するようにし、文字の記述を求める自由回答の欄を設けてはいけない。
- 5 フェイスシートは、回答者の年齢、学歴、家族構成などの属性を回答する欄である。

問題 89 量的調査の集計と分析に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 質問紙調査のデータを集計する際に、全体的な回答の分布を見たい場合に、度数分布表を用いることはない。
- 2 データの分布を代表する値として平均値を用いておけば、中央値や最頻値は見なくてもよい。
- 3 標準偏差は、調査データが全体としてどれぐらい平均値から離れて散らばっているのかを表す指標の一つである。
- 4 推測統計とは、収集されたデータそのものの特徴を記述するための方法である。
- 5 オッズ比は、分布の左右対称性に関する指標である。

問題 90 調査の情報の整理と分析に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 グラウンデッド・セオリー・アプローチにおける軸足コーディングは、単一のカテゴリと複数のサブカテゴリを関連づける方法である。
- 2 プリコーディングとは、自由記述や事前に数値化が困難な回答に対して、調査者が後からコードの割当てをすることをいう。
- 3 会話分析の関心は、調査対象者がどのように日常的な相互行為を秩序立てて生み出すのかを解明するために、会話内容ではなく、会話の形式や構造に向けられる。
- 4 ミックス法は、質問紙などの量的調査とインタビューなどの質的調査を組み合わせる方法である。
- 5 インタビューデータの分析において、対象者が使っている言葉をそのままコードとして用いることをオープン・コーディングという。